

平成30年度 唐津市立加唐小中学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
ふるさと魅力を発見・発信し、次代を生き抜く児童生徒の育成 —地域の特性を生かした主体的・対話的取り組みを通して—	(1)地域とともにある学校づくり(体験活動を通じたふるさとの魅力を発見・発信する活動) (2)離島へき地教育の推進(児童生徒の実践的コミュニケーション能力を育むための研究)

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む



3 目標・評価								
①学力の定着と向上								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者		
学校運営	○教職員の資質向上	校内研究の充実	・実践的コミュニケーション能力を養うため、テレビ会議システムを活用した交流授業やスピーチタイムを実践する。 ・校内研究のテーマに沿った研究授業と授業研究会を全ての教員が年間1回以上行う。	・他校との交流授業や合同スピーチタイムの実践のため、年度初めや長期休業期間を活用して他校との調整や計画の見直しに努める。 ・全教員が「実践的コミュニケーション能力」の育成を目指した指導を行えるよう、校内研究会を中心に教員間での共通理解を図る。 ・積極的な講師招聘を行うなどして、実践力の向上を図る。	研究主任 教頭	島崎		
			指導方法の工夫・改善	・児童生徒対象のアンケートを実施し、「授業が楽しい」、「授業が分かる」、「学習したことが役に立つ」の設問でのポイントが3.3ポイントを上回るようにする。 ・教員対象のアンケートを実施し、「授業において、児童生徒の学力向上のために指導方法の工夫・改善を図っているか」の設問でのポイントが3.3ポイントを上回るようにする。	・極小規模校のメリットを生かして個別の指導計画を作成・活用し、個の能力に応じたきめ細かな指導を行う。 ・学習目標の掲示や学習の振り返りを行うなど、唐津市学力向上アクションプランを基本とした授業づくりを徹底して行う。	学力向上 全員	島崎	
			基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と思考力・判断力・表現力の育成	・12月実施の県調査(小4・5・中1)の全ての教科で、県平均を上回るようにする。 ・12月実施のCRTにおいて、小2で全国平均を上回るようにする。 ・教員対象のアンケートを実施し、「普段の授業において、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図っている」「思考力、判断力、表現力を育成するために、書く活動や説明する活動を位置付けて、指導をしている」の設問のポイントが3.3ポイントを上回るようにする。	・プリント学習等の復習的な課題を課すことで、学習した内容の確実な定着を図るようにする。 ・毎時間の小テストや単元の終わりに確認テストを実施するなどして、学習の定着を把握し、必要に応じて補充学習を実施する。 ・条件を踏まえて、自分の考えを書く活動や根拠を明らかにしながら、筋道立てて伝える活動を位置付けた授業を工夫し、思考・判断したことを表現できる場を設定し、指導を行う。	学力向上 全員	島崎	
学力向上	●学力向上	言語活動の充実とコミュニケーション能力の育成	・教員対象のアンケートを実施し、「普段から言語能力を向上させるための手立てをとった指導を行っている」の設問のポイントが3.3ポイントを上回るようにする。 ・話し手の考えを聞き取り、それに対する自分の考えを明確に述べるができるようにする。	・集会活動や他校とのテレビ会議システム交流などを設定し、言語活動を行う機会を設ける。 ・話を深めることができるような進行方法を考え、活発な意見交流ができるように支援する。 ・スピーチタイムを行い、質疑応答する時間等を設けることで、話す力、聴く力、質問する力、話し合う力の育成を図る。	文化部 全員	上田		
		②「生きる力」の育成	領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)
教育活動	○教育の質の向上にむけたICT利活用教育の実施	ICT機器を活用した授業の工夫・改善	・ICT機器の使い方等の講習を行い、ICT機器を活用した授業がスムーズに行われるよう努める。 ・デジタル教科書が導入されている教科は、原則として、毎時間活用し、児童生徒が電子黒板等を主体的に活用することができるような授業を工夫する。	・授業におけるICT機器の活用についての職員研修を計画的に行い、職員の情報活用能力の向上を図る。 ・ICTを活用した授業実践を通して指導法の工夫・改善を図る。 ・デジタル教科書だけでなく、自作のコンテンツも積極的に開発して授業の充実を図る。	ICT 全員	古賀		
			●心の教育	教育活動全般における道徳教育の充実	・各学級において、学級担任は年に1回以上、道徳の授業公開を行う。 ・道徳の授業だけでなく、他教科においても道徳的な内容に触れ、道徳教育を充実させる。 ・児童生徒対象のアンケートを実施し、「周囲に対して思いやりをもって接することができる」の設問について、全ての児童生徒が肯定的に回答する。 ・学期に1回は、スクールカウンセラーと担任による授業を実施し、自己理解、他者理解を内容としたものを含め、よりよい人間関係を築く能力を付けさせる。	・道徳の授業については、できるだけ教員同士も相互に参観するように努め、互いに授業力の向上を図ることができるようにする。 ・道徳の時間を要(かなめ)としながら、各教科、特別活動など教育課程全般で道徳教育の推進を図ることができるように教員間の共通理解を図る。 ・スクールカウンセラーによる、教育相談の内容とも関連させながら、児童生徒の実態に合致した内容を設定して、授業を実施する。 ・毎週1時間の道徳の時間を大切にして、児童生徒共に考えを共有する時間を持つ。	道徳 担任 相談	田中
			●いじめ問題への対応	児童生徒及び教職員の人権意識の向上	・「命の教育」についての授業を年に1回以上行い、自他共に命を大切にする児童生徒を育てる。 ・人権・同和教育の視点に立って、小中合同で「ほんわかタイム」(人権タイム)を年間5回実施し、児童生徒の人権意識の高揚を図る。 ・講師を招聘するなどして、人権・同和教育の授業実践に関する職員研修や授業研究会を行い、各教科、道徳、学級活動などと関連させながら「心を耕す」取組へと広げていく。	・ふれあい道徳などの機会を捉え、道徳を中心に心の教育、命の教育を実践する。 ・「ほんわかタイム」においては、講話だけでなく、資料提示の工夫や体験型活動の導入などの工夫を行い、児童生徒の人権に対する関心を高め、意識の高揚につなげる。 ・教職員の人権意識向上を目的とした研修会を複数回行い、児童・生徒、地域住民も対象にした講演会を開催する。	人同 教道 相談	田中

	●健康・体づくり	・運動習慣・食習慣の改善や自己管理能力の育成	・アンケートで「週3日以上、15分程度の運動を継続した」と回答する児童・生徒を100%にする。 ・アンケートで「帰宅の際や食事の前に手を洗う」と回答する児童・生徒を100%にする。 ・食の大切さを理解し、自分の健康を保つために必要な食べ物を選ぶことができるようにする。	・昼休みは、できるだけ多くの教職員が関わり、児童生徒と運動場や体育館で運動するように奨励する。 ・年間を通じて手洗い・うがいの大切さを啓発し、正しい手洗いの仕方について保健指導を行う。 ・給食についての反省会を行い、食生活の見直しをさせ、食の大切さを伝えていく。	保体部 体育主任 食育 給食	富永 川橋
--	----------	------------------------	--	---	-------------------------	----------

③キャリア教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
教育活動	○キャリア教育の推進	役割意識の向上と自主的に働く意識の定着	・掃除や給食の当番や係活動を通して、自分が学校生活に役立っていることに気づかせて、有用感を育て、さらに楽しく自分の責任を持つことができるようにする。	・掃除や給食の配膳の方法を理解させるとともに、自分でもできることを積極的に行えることを考えて実行に移すことができるようにする。	(小)担任 進路指導	田中
		「夢」と「望ましい将来の自分像」の具現化	・職業講話や外部講師の話を聞く機会に、生徒対象にアンケートを実施し、「参考になったか」「将来のことについて考える機会となったか」の設問で、全ての生徒が、肯定的な回答をするようにする。 ・生徒対象のアンケートを実施し、「将来の夢ややりたいことがある」「そのために、今やるべきことは何かを考え、実践している」の設問で、全ての生徒が肯定的な回答をするようにする。	・事前に、話を聞いてみたい職種等についてのアンケートを実施し、生徒の興味・関心が高まるような職業講話を企画する。 ・特別非常勤講師の利用や外部講師の話を聞くことで、様々な人との関わりを通して、働く意義や喜びを感じ取らせる。	(中)担任 進路指導	山田

④地域とともにある学校づくり

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
学校運営	○学校経営方針の周知	学校教育目標、学校経営ビジョン、本年度教育の重点の周知と実践化	・学校教育目標、学校経営ビジョンの教職員、児童生徒、保護者への周知度を100%にする。	・学校便りや学校ホームページでの広報活動や、育友会総会、保護者懇談会などを活用して、周知を図る。 ・学校評価研修会において、実践化の進捗状況や節目の振り返りを丁寧に行い、その後の各部会議につなげることでより実践化が図れるようにする。	校長 教頭	伊東
	○開かれた学校づくり	学校と地域の理想的な関係づくり	・月に1回以上は、保護者や島民に公開する授業参観や学校行事を企画する。 ・保護者、島民を含む年間の来校者を300名以上とする。 ・武寧王生誕祭、島内除草作業などの島内行事に、教員は積極的に参加し、島民としての役割を果たす。	・授業参観や学校行事を周知し、多くの方が学校に来校できるようにする。 ・教職員は、島民の一員としての自覚をもって、積極的に島内行事に参加するように心掛ける。	教頭 教務 各行事担当	川橋
		学校情報の積極的な発信	・学校便りを必要に応じて発行し、島内全戸に配布することで、学校の様子を伝えていく。 ・学校ホームページの更新を小まめに行い、且つホームページのメニュー等を精選していくことで、閲覧者が得たい情報を分かり易く伝えていくよう努力する。 ・小中学校それぞれで毎週必ず学級だよりもしくは学年便りを発行し、保護者に対して学校での様子や担任の思いを伝えていく。	・学校便りを島内全戸に配布する。 ・分校が休校のため、迅速に配布することができないが、定期的に松島に職員が渡り、全戸に学校便りを配布し、学校の様子を知らせる。 ・ホームページでの情報発信を月に1度は行っていく。 ・担任が発行する通信を、週に一度は発行する。	校長 教頭 担任 ICT	伊東

⑤業務改善・教職員の働き方改革の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	規範意識、モラルの高揚	・会議や事務の効率化を図り、教職員が児童生徒と向き合う時間を確保する。 ・明るい職員室づくりを目指し、美化や環境を整える。 ・職員間のコミュニケーションを図り、情報の共有化を行う。	・会議時間の設定や資料の事前配布を確実に行う。 ・自分の仕事だけでなく、他の職員への協力を全職員が心がけるよう、声かけを行う。 ・職員間のコミュニケーションを図り、情報の共有化を行う。 ・県内外で行われている様々な研修を紹介し、指導力向上に努める。	校長 教頭	川橋

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目